

沒何別天馬之山瘞此駿骨死而不朽伯樂所拔

友人 藝國 賴囊撰並書

天然紀念物

史蹟名勝天然紀念物保存法によつて指定せられたるものゝ中、本縣に於ては單に天然紀念物而已にして、安藝郡村津呂村室戸岬端の榕樹の純林と橘樹、並に幡多郡清松村松尾の老木榕樹あり、榕樹の特長としては、氣根鬚々として下垂し地に達し、續いて盛に之を生すと雖も、敢て柱狀をなすことなし、而して「かじゆまる」に比し材質粗にして、浮苔を製し又稀に柴架を製することあり、琉球にて日本にては、四國、紀伊、九州、琉球諸島に生育す、四國にては伊豫の西海岸佐田岬より、以南の諸島、南宇和郡平城にあり、土佐にては安藝郡室戸岬附近より、西北行當岬の岬端より吉良川村に至る間、吾川郡浦戸村、高岡郡須崎の沖戸島、中の島、幡多郡足摺の半島、柏島等諸所にあり、殊に室戸岬に於ける榕樹林の特異なるは、其のマツ

キ（伊太利語Macky）をなせるにあり（マツキ）とは海岸に沿ふて或る種の植物が純林をなして密生せる景觀を云ふ）、又松尾の榕樹は密生中にありて其の氣根奇狀をなし、頗る大なる老木にて廣闊に地上を掩ひ、亭々たるものにて他に其の比を見ざるなり、橘樹は即ち柑橘一種の元祖にして、全く本邦原産の品種なり、漿液僅少なるも酸味峻烈二種の香氣あり殆んど食すべからず、普通の橘に比すれば纏る強健なり、田村利親氏（長岡郡新改村の人）は、之を日向國南那珂郡市木村石波浦に得て、大和橘と稱せしが、牧野寅太郎氏（高岡郡佐川町の人）は、曾て之を土佐に得て、當時「やぶたちはな」と命名せり、其の產地は市木村の外、九州にては種子ヶ島、土佐にては安藝郡室戸岬、長岡郡新改村白岩、高岡郡斗賀野村カラ谷なりとす、市木村石波浦には老松天を摩し樹下鬱寒せる中に、點々自生の柑橘頗る多く、枝葉稠密黃果累々として最綠色を呈せり、其の本縣室戸岬の橘に至つては、石波浦に比し、自生のもの密生繁茂し純林をなし、黃果燦然として極めて美觀を呈せり。